

自分の命は自分で守る

校長 石川 顕一



〈避難訓練 4月 25日〉

日中は汗ばむほどの陽気となり、夏の近いことを実感する季節になりました。校庭で遊ぶ子どもたちの額に大粒の汗が光っています。とても嬉しい光景です。また、皆様方のご協力により、子どもたちは、毎日元気に過ごすことができている。ありがとうございます。

先日、校長室の隣の保健室で用を済ませた後に、校長室の私に「校長先生、こんにちは。」と自分から進んであいさつをしてくれる子どもがいました。この素敵な子どもよろしく、本校の子どもたちは、

笑顔いっぱい気持ちのよいあいさつをすることができます。本校でも指導に努めていますが、ご家庭での躰がしっかりされているからこのような素敵な子どもが育つのでしょう。

一方で、登校時や日常の学校生活の中で、私からあいさつをしてもあいさつを返してもらえない時があるのも事実です。（私もあいさつができない時がありますが）あいさつを返してもらうことを期待せず、これからもあいさつを続けていこうと思います。あいさつをする時の子どもたちの様子や表情を継続して観察することは、心配事や悩み事を見つける一助になるからです。

さて、熊本地方を震源とする地震が熊本県や大分県を襲っています。熊本県益城町では、「震度7」を観測しました。熊本城では天守閣の瓦が落ち石垣が崩れました。東日本大震災から5年の月日が経ち、被災地を除くと、地震への警戒心が少しずつゆるみ始めたように思える昨今の「震度7」でした。日本に暮らす以上、どこにいても地震と無縁ではいられないでしょう。私が子どもの頃は、大正時代に起きた関東大震災をモデルに様々な想定をしていました。しかし、この20年間、震度7クラスの地震が4回も起きています。平成7年「阪神・淡路大震災」、平成16年「新潟中越地震」、平成23年「東日本大震災」、そして、今回の「熊本地震」です。「明日はこの辺りで起こるかも」ととらえ、地震への備えを周到に進めることが何より重要だと考えます。

本校では、本市独自の防災教育カリキュラムに基づき、「災害時における危険を認識し、日常的な備えをおこなうとともに、状況に応じて的確な判断し、自らの安全を確保すること（自助）ができる子ども」を目指しています。つまり、自分の命は自分で守れる子どもです。

防災教育については、「防災科」という教科はありませんので、日々の授業の中に盛り込まれております。例えば、社会科の消防署を扱う授業（4年）、AEDを使った心肺蘇生法の授業（5、6年）など、授業を通して、防災教育の自助の態度を養っていくのです。また、学校行事として避難訓練を学期1回、年3回実施し、具体的に行動できるようにしています。

「子どもたち一人ひとりが、集団や社会の中で、自分の力を十分発揮し、よい人間関係を築き、充実した幸せな人生を歩んでいくため」にも、学校と保護者・地域が互いに協力し、自分の命は自分で守れる子どもにして参りましょう。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

さわやかな五月晴れの日々を、ますますお元気でご活躍くださいますようお願い申し上げます。



〈4年生消防署見学 4月 26日〉